

【施設】鎌倉市内の子ども関連施設における読書環境アンケート集計結果2025

第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画を推進していくにあたり、子ども関連施設の読書環境を把握するため、令和7年（2025年）5月にアンケートを実施しました。

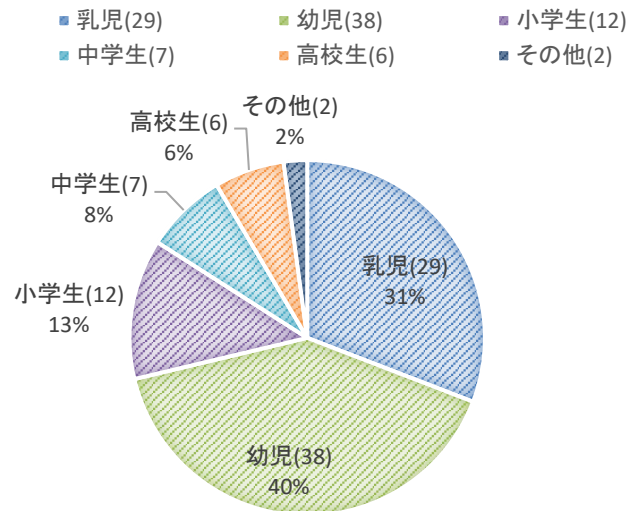
鎌倉市内の保育園、幼稚園、認定こども園、放課後子どもひろば・子どもの家、子育て支援センター、支援学校、児童発達支援施設、放課後等デイサービス、フリースクールの103施設に依頼し44施設から回答を得ました。（FAX30件、e-kanagawa14件）

回答率は42.7%、回答者のうちe-kanagawaでの回答率は31.8%でした。
子どもの読環境について定点観測し、今後の読書環境整備に役立てます。

過去度のアンケート集計結果は



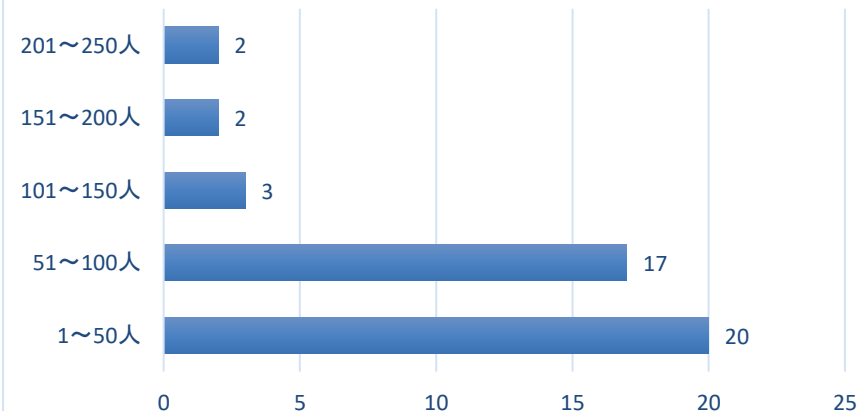
施設の対象者（複数回答可）



【回答施設の内訳】

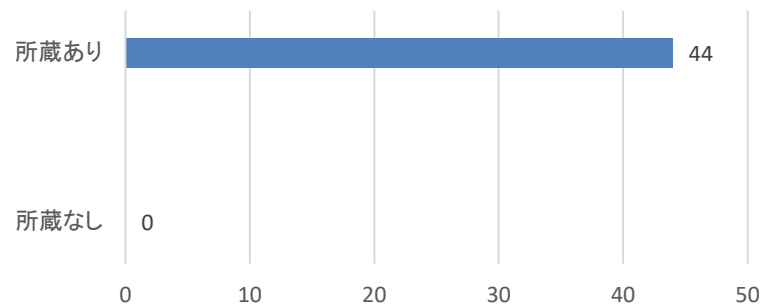
民間保育園16、公立保育園4、幼稚園5、認定こども園1、放課後子どもひろば・子どもの家5、子育て支援センター5、児童発達支援施設・放課後デイサービス8

施設の利用人数



※単位について記載のない数値は施設数を表しています。

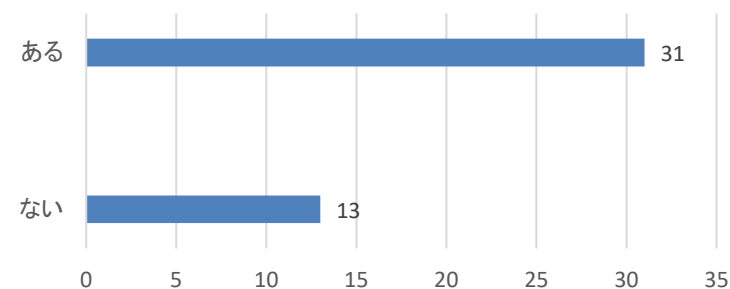
子どもたちのために資料を所蔵しているか



回答のあったすべての施設で子どもたちのために資料を所蔵しています。

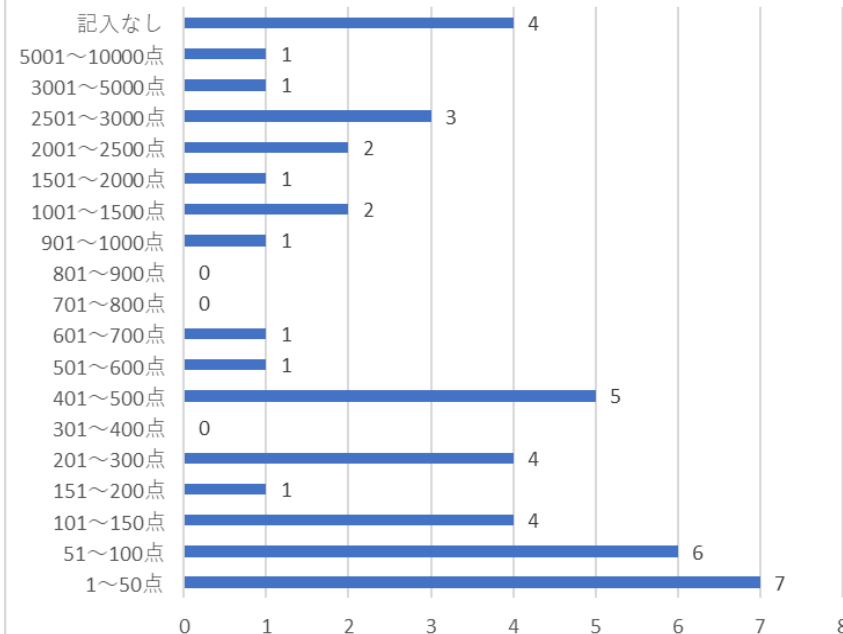
冊数が少なくても、所蔵があることが大切だと考えます。

購入予算

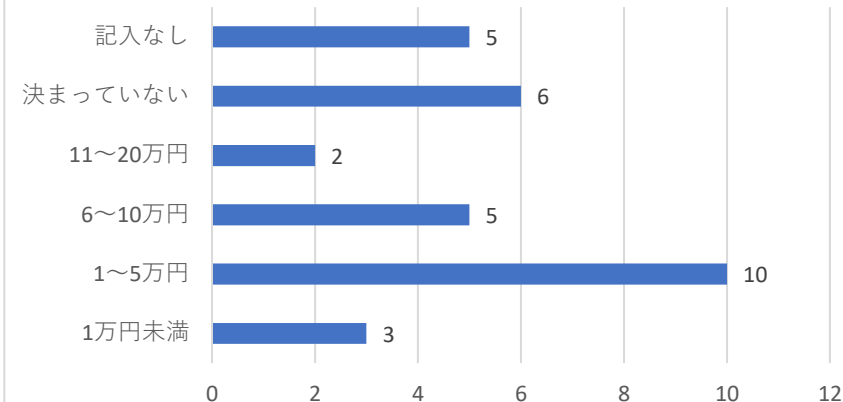


購入予算については、今年度もある施設がない施設の2倍以上となり、購入予算をもつ施設が増えています。継続した資料の購入につながるため、金額が少なくても予算化されていることが重要だと考えます。

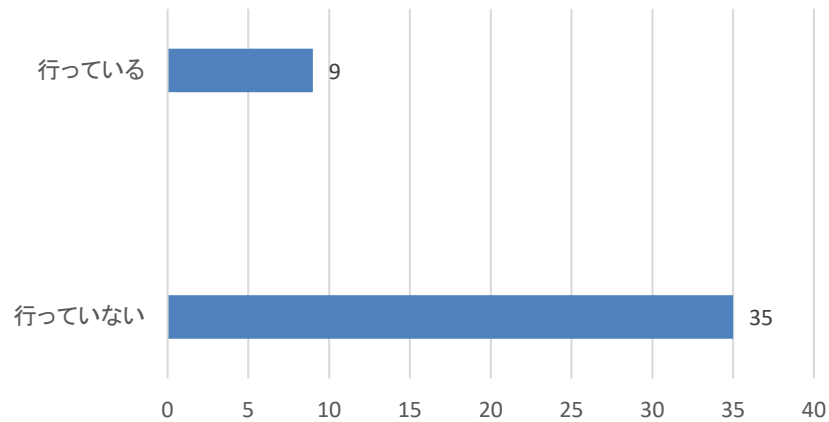
所蔵点数



年間購入予算



子どもたちへの本の貸出



本の貸出を行っている9施設について

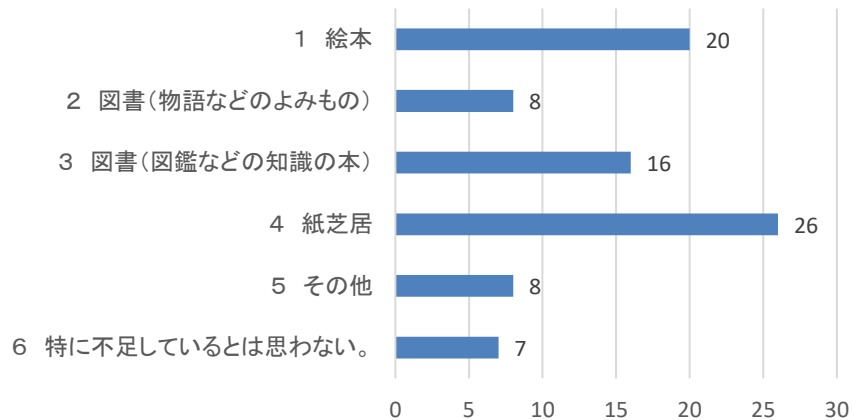
【貸出点数】

1点 2施設
2点 3施設
3点 1施設
決まっていない 2施設
無回答 1施設

【貸出期間】

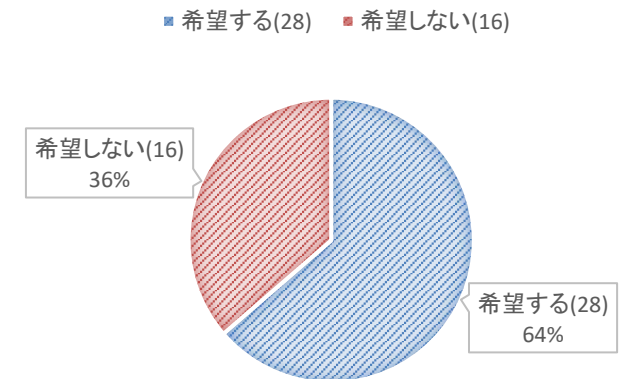
3日間 2施設
1週間 4施設
2週間 1施設

不足している資料



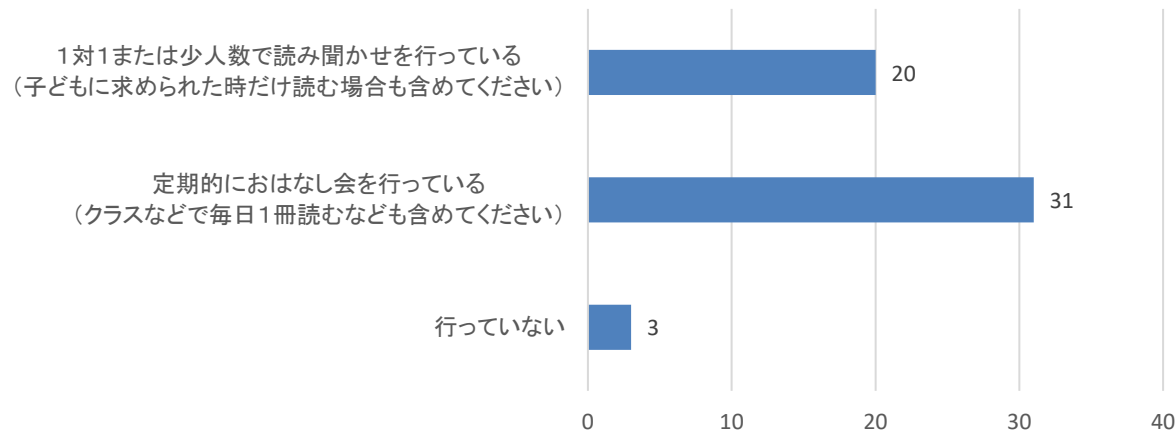
貸出せず、施設を利用しているときに、読んだり、読み聞かせを行う場合が多いようです。

リサイクル図書の希望について



リサイクル図書の配布については、ご希望の施設へお知らせします。

本の読み聞かせについて(複数回答可)

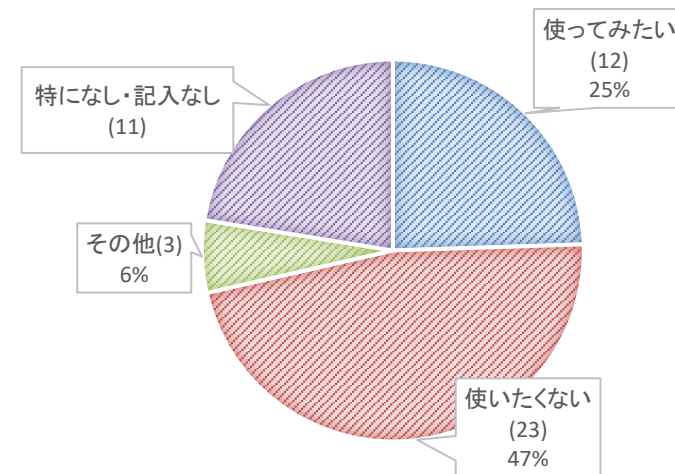


回答のあったほとんどの施設で読み聞かせが行われています。

今年度は電子書籍についての項目を追加しました。
「図書館で子ども向けの電子書籍を導入したら、使ってみたいですか？」
使ってみたいが25%、使いたくないが47%でした。
ご意見もうしろのページに掲載しています。

電子書籍について

- 使ってみたい(12)
- 使いたくない(23)
- その他(3)
- 特になし・記入なし(11)



【施設】読書バリアフリーについて

《障害のある子どもへのサポート》

- ・障害のあるお子さんに対しても他のお子さんと同じ対応をしている。
- ・数は少ないが布絵本等を所蔵している。絵本の原書も所蔵している。手話ユーザーと聴こえる保護者がペアを組み、手話による読み聞かせを行ったことがある。
- ・対象児の注意の持続や、ことばの聞き取りにあわせて読む長さや読み方を工夫して聞かせています。
- ・布絵本、音が出る絵本を使用
- ・文字が少なく視覚で楽しめる絵本や、歌や童話の音が流れる絵本など所蔵している。
- ・文字を読むことが苦手な子からリクエストがあり、人手に余裕があれば本を読んであげています。すると自然と子どもたちの輪ができています。それ以外のサポートが必要な子がいないので特にサポートはしていません。

《海外にルーツのある子どもへのサポート》

- ・フルーツが英語で書かれている本を読んで、英語が得意な職員と、発音を教えてもらいながら読んでいる様子が見られた。
- ・英語の絵本を所蔵している
- ・外国の絵本も一緒に本棚に置き、誰もが気軽に手にとり見れるようにしています。

《その他》

- ・読んで欲しそうにしている子どもに大人が読んで 紙を破ってしまう子どもが多い。一ページが厚い絵本ならページをめくりやすい。
- ・対象になる子どもを受け入れたら購入する。今現在いない。
- ・特にバリアフリーの対応は現在していません。例えば図書館からおかりして、1年に2回くらい支援センターでバリアフリー絵本を展示し、皆さんに知っていただくというような取り組みができればと考えます。
- ・読書でサポートが必要な子どもが現時点でいないため、特におこなっていない。
- ・年齢ではなく発達に応じた必要な絵本を選んでいる。

【施設】電子書籍について 図書館で子ども向けの電子書籍を導入したら、使ってみたいですか？

《使ってみたい》

- ・保育園では実際の絵本に触れることを大切にしていきたいです。
- ・使ってみたいと思いますが、子どもへの影響がどこまであるのか心配です。
- ・大きな画面で見たりできるものですか？できたらつかってみたい。
- ・簡単に手続きができるのであれば使ってみたいです。
- ・使ってみたいです。ですが紙の絵本や図鑑の良さもあるのでそちらがメインの方が嬉しいです。
- ・積極的に利用してみたいです。

- ・使ってみたいです。
- ・子どもたちにとっては、電子的なものは魅力的だと感じると思う。
- ・タブレットなど最初の初期投資がクリアできたら使ってみたい。
- ・使用したいと思いますが施設で使えるパソコンやタブレットがありません。
- ・端末でレンタルできるのであれば使ってみたいです。文字を読むことが苦手な子でも本に興味を持つきっかけになるかもしれません。
- ・寄り添いながらの読み聞かせが可能であれば使ってみたい。

《使いたくない》

- ・使用は考えていない。
- ・電子書籍は乳児なので導入したくない。紙の質感を大事にしたい。
- ・乳幼児に対しては電子書籍は不向きと考えています。
- ・今のところ使ってみたいと思わない。
- ・子どものうちは、内容がすべてではなく手で触れることも必要だと思うので、使ってみたいと思いません。
- ・保育園では今後も利用予定なし。
- ・機器を使うことが楽しくなってしまうことで、本を読むことの目的が薄れてしまうように感じるため使うのはためらう。
- ・子どもの本は一緒にめぐりながら、子どもと大人が時間を共有しふれあいも含めて楽しむものだと考えている。

電子書籍は、紙の本の代替物ではないため、導入する予定はない。

- ・電子書籍は、子どもに見せたいとは思いません。
- ・やはり紙がいいです。
- ・ストーリー性のあるもの(話)には理解が難しい。PCではなくDVDプレイヤーで再生できるもの。
- ・本を自らめぐり、言葉を紡ぎ、物語を読む良さもあると思うので、紙の絵本、本も沢山残してほしい。

親子でページをめくる楽しさも感じてもらいたいので、あえて電子書籍は選ばない。

- ・調べ学習をする年齢層の子どもには電子書籍が有効なこともあるでしょう。支援センターを利用する0～3歳の子どもたちは普段ユーチューブの視聴時間が長いと聞いています。デジタルデトックスの時間をつくるためにも、小さい子向けは紙の本が有効と考えます。
- ・対象になるような利用者がいないので考えていない。
- ・紙媒体で良いと思っているため使ってみたいと思わない。
- ・何冊も持ち運べるといった利便性や園全体、クラス全体のお楽しみとしてであれば保育の中でも上手く活用していくことができるかもしれないが、やはり手に取って様々な大きさや重さを実感したり、自分の手でページをめくる、本を選び取る瞬間が本に触れていく中での醍醐味だろうと思うので、今の段階では使用について考えてはいない。

<その他>

・幼児期はやはり紙ベースの絵本、紙芝居が個人的には良いと思う。ただ、現代社会では家庭で電子書籍も多いので絵本なら子供は違和感がないと思う。なかなか毎日150名程度の利用がある当施設では、電子書籍は扱いの面からも導入には勇気がいるところです。

・検討中

【施設】読書について(独自に取り組んでいること、困っていること)

《独自の取組み》

・図書館作成のブックリスト(赤ちゃんに贈る絵本の紹介リスト ブックスタート編)の本の紹介の文章を、その本ごとにポップのように掲示しています。ただ本を並べていた時より、ママが手に取ってくれる機会が増えています。月1回深沢図書館の方が来てくださるおはなし会が、親子が本と共に良い時間を過ごすよい機会となっています。皆楽しみにしていますし、おはなし会后 絵本を手にして貸出している姿を見ては嬉しく感じています。

・月例で読み聞かせ会(ちゅうちゅう会)を保護者が行っている。手遊びから始まり、時には人形劇やちょっとした寸劇?のようなものがあるときもある。保護者も楽しんでいる様子がある。

・月例で絵本の会を開催している。テーマを設けて、関連する絵本を紹介しあう。絵本の奥深さと派生する脱線話が面白い。

次第に、お互いの好みや絵本の読み方が分かるようになる。1年が終わると、読書会を終えた満足感がある。

・古い絵本は痛んでくるので、定期的に保護者・卒園保護者が絵本を直す活動(絵本お直し隊)を行っている。

・保育者が帰りの時間に絵本を読んでいる。保育者の好みで様々な絵本を読んでおり、保育者が読む絵本の貸し出しが増える傾向がある。

本は誰かに紹介されて関心を持つものだと感じる。本は人のつながりで広がっていくものなのだろう。

・月に一回、こどものとも を幼稚園から子ども達にプレゼントしている。

・絵本貸し出しの管理運営は保護者が担っている。

・午前と午後の2回、スタッフによる絵本の読み聞かせを毎日行っている。

・今年度から玉縄図書館からの依頼で妊婦さんとその家族、よちよち歩きまでのあかちゃんとその家族を対象に「妊婦さんとあかちゃんのためのおはなし会」を支援センターと連携して行う。

・マンガの単行本を中心に読んでいる子どもが多い。また、一部の子どもは、自分の興味ある図鑑を見ている。

・園内に図書コーナーを設けています。送迎時に親子で読む姿がみられてます。

・家庭内でできる読み聞かせの工夫について ペアレントトレーニングのプログラム内でお伝えしています。

・絵本シネマ 良い本がたくさんあるが、絵本にふれる機会を多くしたいと思い絵本シネマを導入した。

・寄り添いながらの絵本読みなどは幼児へ成人まで行われている。3歳児1名は定期的に腰越図書館のおはなしの会に参加している。

・月に1回ボランティアの方に来ていただき、3～5歳児を対象にした”おはなし会”を行っている。

・子どもがいつでも取り出せる本棚が低い位置にある。

・子どもたちのリクエストを聞いて、できる範囲で購入しています。

- ・子ども達の委員会活動の中のひとつに「図書委員会」を設置し、活動を行っています。毎月5000円の予算で、支援員が付添い、子ども達中心で本の購入を行っています。月初めに、どんな本(漫画を含む)を読みたいか子ども達からアンケートをとり、書店やブックオフにお買い物に行く等の活動を、子ども達も楽しみながら行っています。
- ・子ども読書セットを大船図書館で利用させていただき、毎日3～5歳児が楽しみながら絵本を選んでいきます。ありがとうございます。
- ・出来るだけ絵本のおもしろさ、保護者の肉声で読むことの大切さを伝えています。
- ・図書館の方に来所いただき、読み聞かせをしていただいています。乳幼児期に提供する際に気をつけることなど、学ばせていただいています。
- ・乳児の時から絵本が手に取れるような環境にしている。朝の会や活動の合間、自由時間など読み聞かせをしている。
- ・年齢別にブックリストを作成し、日々の保育に役立てている。
- ・毎月のお誕生日会やイベントで、大きな絵本を使用しみんな楽しみにしている。もっと本に親しめるよう、カルタをして、ひらがなを自然に覚えるようにしている。
- ・絵本コーナーを作って、貸し出せるようにしたところ、喜びの声が多数上がっている。よく借りていっているが、冊数や返却期限日が保護者判断なので、返ってこなかったりしている。うまいシステムの構築を考えている。
- ・散歩の一環として玉縄図書館を年に何回か利用させていただいています。

《困っていることなど》

- ・本の数はあるが、内容が合っていないかったり、古すぎて破れてしまったりして、実際子どもたちに与えたいものでないことが多い。絵本の多岐にわたる種類が欲しいです。
- ・絵本を数名に読み聞かせる場面で、気になると自分の手にしないと癪癪が起きる児の対応について。

《その他》

- ・「子ども読書セット」を利用してみたいと思います。園にも絵本はありますが、子どもに読んであげたいと思う本や季節や行事に関する本は私物のものが多いです。
- ・読み聞かせに来ていただくと子どもたちがとても喜んでいました。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・「子ども読書セット」の貸出について。とても良い取り組みだと思います。課題は職員不足ということもあり、図書館に取りに行くことが難しいです。
- ・定期的におすすめの絵本や図鑑、紙芝居などの配布があると嬉しい。絵本(図鑑なども含め)に多く触れてほしいと思っているので、劣化も激しい。
- ・今後、保護者向けに本の貸出を予定しているため、イラストや写真が入っていて、すべての文字を追わなくても、見て、興味 関心をもってもらえそうなものを探しています。貸出数が多い育児書や子育てに関する書籍がありましたら、教えていただけると助かります。